

科目名	理学療法学基礎理論			ナンバリング	ZSF239	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	Goh Ah-Cheng	担当教員					

授業の概要	理学療法の基盤を支える基礎的な理論について、その概要を学修する。物理療法、運動療法などのアプローチが生体に与える生理学的影響を理解し、様々な疾患・障害に対するアプローチを開発してきた先人の理論をもとに、障害や多彩な症状に対する治療理論、仮説をもとに展開・発展している理論などについて学ぶ。						
到達目標	1 .物理療法、運動療法などの理学療法アプローチが生体に与える生理学的影響について理解する。 2 .理学療法における生理学的影響の定量的解析法を理解する。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	この科目を理解するためには、解剖学や生物学の知識が必要になります。 よく復習しておいて下さい。						
ディプロマポリシーとの関連	【健康医療科学部理学療法学科のディプロマポリシー】						
		1	広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。				
		2	地域に住む人々の健康・医療課題を的確に把握し、疾病や障害を予防することや、疾病や障害から生ずる身体機能および能力の回復・改善を促すことを通して、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。				
	○	3	健康・医療に関わる課題を解決するために、理学療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた理学療法技術を駆使して日常生活活動に関わる基本動作や身体能力の維持・改善に対する支援ができる。				
	○	4	健康・医療に関わる理学療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。				

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
授業で示した基本的な概念に関する問題が解ける 応用問題が解ける	やや難しい応用問題が解ける 臨床に即した難しい応用問題が解ける

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
評価方法							
定期試験(中間・期末試験)	●						90%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			●	●			10%

課題、評価のフィードバック	manabaを使用して、フィードバックを行う。
---------------	-------------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	恒常性	体温調節	
	第2回	筋神経系	痛みの理論・評価	
	第3回	筋骨格系	運動制限	
	第4回	筋骨格系	運動と疲労	
	第5回	筋神経系	バランスコントロールの理論	
	第6回	筋神経系	加齢の生理学	
	第7回	心肺系	運動に対する心肺系の反応	
	第8回	心肺系	歩行中のエネルギー消費	
	試験	全講義終了後に期末試験を実施する。試験範囲は全範囲とする。		
授業の進め方		講義を通して、理学療法における生理学的影響について学習する。		
授業外学習の指示		毎回、授業のはじめに、前回の授業の要点について質問を行いますので、自分の言葉で端的に分かりやすく説明できるように準備して授業に臨んでください。 (授業外学習時間： 毎週 220 分)		

教科書	特になし(授業のレジュメ)
参考書	特になし
参考URLなど	特になし
その他	特になし